

自然増殖してしまった害鳥・インドクジャクを効果的に駆除する方法はあるか？

黒島研究所によると、「オスはなわばりを持って移動せず、そこを複数のメスがまわっています。メスは数個の卵を産みます。卵は4週間ほどで孵化します。ヒナはメスのうしろに並んで移動し、2-3年で成鳥になります。寿命は20年以上とされています。」となっています。下のWikipediaの記事からは、この数個の卵は3~8個です。成鳥になった後は、雄雌2羽から毎年4羽が生まれてくると考えると、その増殖率たるや、すごいものがあります。

自然環境に恵まれて増殖したこのインドクジャクを撃退するには、新城島が行ったように、短期集中的に駆除していく方法が効果的であると考えられます。幸いにも、インドクジャクの飛行能力はそんなに高くはないようですので、島単位で駆除を重ねて行くことは可能でしょう。駆除に掛かる人材と資源を計画的に一極集中させていく事がこの問題を解決する一つの方法ではないかと考えます。

インドクジャク (Wikipedia)  
キジ目キジ科クジャク属に分類される鳥類。クジャク属の模式種。

インド、スリランカ、ネパール南部、パキスタン東部、バングラデシュ西部に自然分布。

日本経済新聞 2019年(令和元年)9月4日(水曜日) (夕刊)

# クジャク大繁殖 宮古島困惑

## 農業被害、生態系影響も

宮古島の市街地から車で10分ほどの市街地帯に35年ほど前、ハヤカキを林8月中旬、駆除隊員とついでに、この数年を指示する緑色の旗を立て、クジャクを撃退する。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。



鳥全体に生態域が広がったインドクジャク (沖縄県宮古島市)

宮古島の市街地から車で10分ほどの市街地帯に35年ほど前、ハヤカキを林8月中旬、駆除隊員とついでに、この数年を指示する緑色の旗を立て、クジャクを撃退する。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。

宮古島の市街地から車で10分ほどの市街地帯に35年ほど前、ハヤカキを林8月中旬、駆除隊員とついでに、この数年を指示する緑色の旗を立て、クジャクを撃退する。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。

宮古島の市街地から車で10分ほどの市街地帯に35年ほど前、ハヤカキを林8月中旬、駆除隊員とついでに、この数年を指示する緑色の旗を立て、クジャクを撃退する。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。

宮古島の市街地から車で10分ほどの市街地帯に35年ほど前、ハヤカキを林8月中旬、駆除隊員とついでに、この数年を指示する緑色の旗を立て、クジャクを撃退する。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。宮古島の砂川秀夫さん、この増えたいく、本は何かを言う。

オーストラリア、日本（南西諸島の一部）、ニュージーランドなどへ移入。

最大全長 230cm。メスは全長 86-90cm。翼長オス 44-50cm、メス 40-42cm。体重オス 4-6kg、メス 2.8-4kg。頭頂には扇状に羽毛が伸長する（冠羽）。虹彩は褐色。

標高 1,500m 以下にある落葉樹林やその周辺、農耕地などに生息する。地表棲で飛翔することは苦手だが、危険を感じると飛翔することもある。オス 1 羽とメス数羽からなる小規模な群れを形成し生活する。昼行性で、夜間は樹上で休む。

食性は雑食で、昆虫、節足動物、小型爬虫類、両生類、植物の葉、果実、種子などを食べる。

繁殖形態は卵生。繁殖期になるとオスは単独で生活し、大声で鳴きメスに求愛する。茂みの中に窪みを掘った巣に、インドでは 1-4 月に 1 回に 3-8 個の卵を産む。抱卵期間は 27-29 日。メスのみが育雛を行う。

### 八重山列島・黒島のインドクジャク

観賞用に飼育されていた個体が遺棄、あるいは脱走し世界各地に帰化している。

日本でも沖縄県の先島諸島（宮古列島の宮古島、伊良部島。八重山列島の石垣島、小浜島、黒島、新城島、与那国島）に定着しており、トカゲ等の小型固有種を捕食し問題となっているため、要注意外来生物に指定され駆除が進められている。

八重山列島では、最初に新城島に導入され、1979 年に小浜島のリゾートホテルに持ち込まれたものが観賞用として各地に寄贈されて広まった。黒島では、1980 年代に観賞用として持ち込まれたものが脱走し、天敵がいなかったために異常繁殖して、2013 年現在では数千羽以上が生息すると推定されている。

新城島では、2006 年から 2009 年にかけて集中的に駆除が行われ、累計で 116 羽が捕獲されてほぼ完全に排除された。2013 年には、黒島で箱わなにより 1,479 羽が、また、小浜島で銃器により 160 羽がそれぞれ駆除されており、その後も黒島や小浜島で銃器による駆除や探索犬による繁殖卵の駆除が続けられている。

